

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成30年7月12日(2018.7.12)

【公開番号】特開2016-211723(P2016-211723A)

【公開日】平成28年12月15日(2016.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2016-068

【出願番号】特願2015-148828(P2015-148828)

【国際特許分類】

F 16 C 41/00 (2006.01)

F 16 C 33/58 (2006.01)

【F I】

F 16 C 41/00

F 16 C 33/58

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月31日(2018.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

前記段部17は、前記外輪3aの中心軸に直交する仮想平面上に存在する円輪状に形成されている。この様な段部17は、径方向内端縁が前記小径円筒面18の軸方向他端縁に断面半円弧状の周方向凹溝を介して連続すると共に、径方向外端縁が、前記部分円錐面16の軸方向片端縁に連続している。尚、前記周方向凹溝は、前記段部17の径方向内端縁と、前記小径円筒面18の軸方向他端縁との連続部に応力が集中するのを防止する為のものであり、省略する事もできる

前記小径円筒面18は、前記段部17の軸方向片側に隣接した位置から、軸方向片端縁に掛けての部分に形成されている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0078

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0078】

前記外輪3cは、内周面の軸方向中間部に深溝型の外輪軌道2aを有している。又、この外輪3aの外周面の軸方向中間部には、全周に亘り径方向内側に凹んだ状態で周方向凹溝10が形成されている。又、前記外輪3aの内周面のうち、前記外輪軌道2aよりも軸方向片側部分は、この外輪軌道2aに近い側から順に、小径円筒面11と、段部12と、大径円筒面13とが形成されている。これら小径円筒面11、段部12、及び大径円筒面13に関しては、前述した実施の形態の第1例の構造と同様である。

特に、本例のセンサ装置付ラジアル玉軸受1cを構成する外輪3cは、軸方向片側面のうち、円周方向に関する1箇所位置に、径方向両端部及び軸方向片端部が開口した外輪側切欠部14bが形成されている。